

令和7年度



園だより 2月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標 “しあわせいっぱいの子供園”

○もりもりそだつげんきなからだ ○たいせつななかまとじぶん ○かんじるこころとあたま

一人ひとりが大切な存在

主任教諭 中村咲希

先日、家族でいちご狩りに出かけました。ビニールハウスの中には、色とりどりのいちごがたくさん実っていました。わくわくしながら、「おいしいいちごはどれかな～？」とじっくり観察すると、真っ赤ないちご、まだ白っぽいいちご、大きないちご、小さいいちご、きれいな形のいちご、ごつごつした形のいちご・・・どれも違った姿をしていました。“いちご”と一括りに言っても、色も形も味も、全てが違うことに改めて気が付きました。きっといちご農家さんが一株一株、一粒一粒に愛情をこめて、そのいちごに合ったお世話をしていることでしょう。

私たち、子供園の職員もいちご農家さんがそうするように、“子供園の子どもたち”と一括りにせず、園児一人ひとりの個性の理解に努め、本人の思いを受け止め、大切な存在として日々関わっています。子どもは、自分が大切にされていると実感できると、自分自身を大切にし、“自分は自分のままで大丈夫”と自信をもって大きく育っていきます。

また他者（友達）も自分と同じように大切にされる存在であると気付くことで、「人と違っていいのだ」と気付いていきます。この気付きが自分と違う思いや考えを受け入れ合うことにつながっていきます。

走ることが好き、絵をかくことが楽しい、優しい、粘り強いなどの一人ひとりありのままの良さはもちろん、苦手なことや課題、成長を期待する面もすべて受け止め、一人ひとりが大切にかけがえのない存在であることを、ご家庭と子供園とで一緒に伝え続けていきたいと感じます。



【2月の保育】



年少うさぎ組

手回しコマや凧あげなどの正月遊びでは、「ぼくも！わたしも！」とたくさんの幼児が興味をもち、他の幼児と関わって遊ぶ機会となりました。

今月は、他の幼児と同じ場所で過ごしたり遊んだりする中で「おもしろい！」「困った」など様々な感情を味わいながら、相手の思いを知ったりその幼児なりに納得したりできるように支えています。

学級全体では、節分や獅子舞などの季節行事に触れて、幼児なりに遊びに取り入れたり、年中児の音楽会に刺激を受けて楽器遊びを楽しんだりしていきます。またうさぎ組最後の元気タイムがあります。えいたコーチに教えていただく運動を、遊びの中でどんどん取り入れて、寒くても園庭で元気いっぱい遊びます。

年長ぞう組

いろいろな場面で自信をもって取り組む姿が見られるようになってきました。投げゴマや竹馬に挑戦中です。はじめは、なかなか一步が踏み出せない子、うまくいかないとすぐに違う遊びをする子もいました。繰り返し取り組む中で、友達の挑戦する姿に刺激を受けて、自分もやってみようとし、できるようになるまで諦めない気持ちが育っています。少し難しいことにも粘り強く挑戦する姿を大切に、一人ひとりの達成感につながるように支えています。

今月は、音楽会や学級全体で取り組む活動、ひな祭りに向けたひな人形作りなどを楽しみながら、自分のやりたい遊びを存分に楽しんでいくことができるよう、見通しをもった生活を進めていきます。カレンダーや1日の予定表などを活用し、幼児同士で声を掛け合いながら生活できるようにします。

年中くま組

園庭では、短縄や大縄など個々に繰り返し挑戦したり、友達や教師と一緒に中当てや鬼ごっこをしたりして体を動かすことを楽しんでいます。

学級のみんなで歌ったり楽器を鳴らしたりして、声や音が揃う心地よさやみんなでする楽しい雰囲気を味わっています。学級の友達と一緒に過ごす楽しさが感じられるような遊びを取り入れていきます。

お休み調べや誕生会の司会など、今まではぞう組がしていたことを教えてもらいながら取り組んでいます。“不安だったけど、やってみたらできた”という経験を丁寧に積み重ね、自信や進級への期待につなげていきます。

